

津市役所職員を体験しました！

「危機管理部」という部署を知っていますか？危機管理部は他の部署と比べ、市民の方々と交流する機会が少ないです。普段は縁の下の力持ち的な役割を担っていますが、いざとなると市民の方々と最前線で守る部署です。そんな危機管理部について、この記事を読んで知ってもらえたらなと思います。

危機管理部

三重大学3年

実習日 令和4年8月8日～12日

危機管理部には、危機管理課・防災室の1課1室があります。現在、部長以下19名の職員が在籍しています。危機管理部は、直接市民の方々と関わることは少ないです。しかし、その分部署内での関わりが深く、皆さん和気あいあいとしており、皆さんが名前からイメージするよりもずっと柔らかい雰囲気職場です。

1. 主な業務内容の紹介

危機管理部には、通常時と災害時の2つの顔があります。危機管理部と聞くと、皆さんは何を思い浮かべますか？おそらく、災害などの時に対応しているイメージが強いと思います。しかし、災害は毎日起こっているわけではありません。今回のインターンシップ中に、それぞれどのような業務を行っているのか防災室の方々に聞いてみました。

① 通常時

災害が発生していないような日は、備蓄品の管理や防災用品の補助金の管理を行っています。また、自主防災会の訓練や協議会に参加したりもしています。

② 災害時

災害時は、川の水位を確認したり、ダムなどの状況を確認する業務を行います。水位の確認をすることで、地域住民への避難指示などに繋がります。また、災害の状況について、電話対応やメディアからの取材を受けたりもします。そして、市が観測した情報や、地域住民から得た情報を共有したりしています。



▲実際の小学校の備蓄品保管庫

2. インターンシップでの体験



▲防災ボックス

4日間を通して、さまざまなことを体験させていただきました。ここからは、私が体験したことについてと、インターンシップで学んだ、何か災害があったときに役立つ情報を紹介していきたいと思います。

1日目

津波避難ビルである贄崎地区防災コミュニティセンターには、「防災ボックス」というものがあります。防災ボックスとは、中に施設の鍵や防災ラジオなどが入っているボックスです。このボックスの特徴は、震度5以上の揺れが起きた時に自動的にボックスの鍵が開くようになっていることです。大きな地震の際は、誰でもそのカギで避難所に入ることが可能となっています。

2日目

芸濃で起こった土砂崩れの現場を見せていただきました。事前にハザードマップで、どういう場所が何の災害に弱いかについて確認してから向かいました。ハザードマップは知っている方も多いと思いますが、実際に利用した方は少ないのではないのでしょうか。ハザードマップは自分の住む地域でどのような災害が起こる

か事前を知ることでできるアイテムであり、私は皆さんにぜひ自分の地域を調べて欲しいと思います。

3日目

津波避難ビルの案内板を見たことがありますか？これは何か災害が起こったときに避難所などになる場所に設置されています。しかし、この看板がついているところに、何があったときでも避難できるわけではありません。お近くの避難所がどのようなときに開設されるか、また、一時避難所となるかを確かめておくが良いと思います。

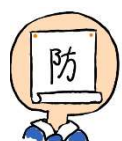


▲甚濃の土砂崩れの様子

3. インタビュー

危機管理部でのやりがいなどを、今回は防災室の方にインタビューさせていただきました。

危機管理部で働く中でのやりがいや、嬉しいことは何ですか？



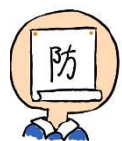
防災室の方

何がいつ起こるか分からないため、この部署は必要であり、やりがいがあります。防災に関する講演会などで地域住民の方に話をすることがありますが、それもやりがいがあり達成感があります。また、「ありがとう」などの言葉をもらうと、とてもうれしいです。



私

逆に大変なことは何ですか？



地域住民の方からは、ポジティブな言葉だけでなく、厳しい言葉もいただくこともたくさんあります。また、警報などが出ると時間に関係なく出勤する必要があるので大変です。しかし、そういった点も責任感のある仕事であり、やりがいに繋がっています。



4. インターンシップを終えて

正直、津市役所のインターンシップに参加するまで、危機管理部のことをあまり知りませんでした。なんとなく、災害発生時や、台風などが近づいてきたときに、対応している部署というイメージしか持っていませんでした。そのため、通常時(災害が発生していないとき)は何をしているのか、確かめてやろうという気持ちでインターンシップに参加しました。そして、様々なことを体験させていただきましたが、通常時の仕事も防災関係のものが多かったです。また、たまたま台風が接近していたため、津地方気象台の方の台風の説明会を聞くこともできました。前半にも言いましたが、危機管理部の「2つの顔」を見ることができたのではないかと思います。

4日間を通して、他の部署と比べたら少し地域の方とのかかわりが少ないため変わっているかもしれません。しかし、「縁の下の力持ち」的な役割を担っているのが、この危機管理部だと強く感じました。

インターンシップのスケジュール

8日(月)

午前 危機管理部の紹介など

午後 コミュニティセンターの見学

9日(火)

午前 防災備蓄品などの管理の見学と説明

午後 実際に起きた土砂崩れの現場訪問

10日(水)

午前・午後 避難所案内板の修復作業体験など

12日(金)

午前 事務作業

午後 事務作業、台風についての説明会参加など